



アリは、どうやってえさを巣にもって帰るの

アリのえさは、花のみつ

たいていのアリは、あまい物が好きです。アリのおもなえさは、草木の花などから集めたみつです。ほかに、アリマキやチョウの幼虫などが体から出す、みつも、集めます。

アリの体は、ミツバチなどとよく似ていて、みつを運ぶための胃(みつ胃)と、自分の胃をもっています。吸ったみつの大部分は「みつ胃」に入り、自分の胃に入るのは、ほんのわずかです。巣に帰ったアリは、集めてきたみつを、口移しで、巣にいる仲間にわたします。

アリの巣をほりだすと、みつでおなかがあふくれたアリが、たくさん見つかります。これらのアリは、自分の体(みつ胃)にみつをためていて、おなかがあふいたアリは、これらのアリから、口移しでみつをもらいます。

こん虫などの死がいは、ちぎって運ぶ

アリには、動物性のたんぱく質のえさも必要です。たいていは、死んだ虫やミミズなどを見つけて、巣に運びます。1ぴきで運べそうなものなら、がちりした大あごで、くわえて巣に運びます。自分の体重の何倍もあるものを運ぶことができます。巣の近くで大きな獲物を見つけたときは、巣にもどって、仲間をたくさん連れてきます。そして、獲物を運べるくらいに小さく解体し、それぞれがくわえたり、引きずったりして巣にもち帰ります。巣の中で、獲物をさらに細かく解体し、中の肉のだけを、みつと同じように、体の中の「みつ胃」にためておく仲間がいます。よく見るクロオオアリなどの巣をほっても、食料貯蔵庫が見つからないのは、アリの体が貯蔵庫がわりだからなのです。

アリの種類によっては、草の種を一つずつ巣に集め、幼虫のえさも草の種というアリもいます。このアリの巣をほると、たくさんの草の種が出てきます。(監修・中山 周平)

